

《担当者名》金澤潤一郎

【概要】

発達心理学、発達臨床学（発達臨床心理学、臨床発達心理学を含む）、発達精神病理学、発達精神神経学、発達障害学などの発達科学の分野における、研究動向、最近の発見、理論的挑戦について、各自の研究テーマに沿って文献を検索、収集、批判的に読解し、学位論文の完成を目指していく。また、よい研究成果は積み上げによって生み出されるものであり、上記に加えて、研究仮説の検討、研究計画、データ収集法、分析方法、データの考察について実際に論文を作成し、専門誌に投稿をする経験を通して、研究テーマを深めていく。

【学修目標】

発達心理学領域の最新の動向を理解し、研究方針を検討する。  
 児童～思春期における発達障害臨床の動向を理解し、臨床や研究に活用する。  
 成人期における発達障害臨床の動向を理解し、臨床や研究に活用する。  
 福祉領域における公認心理師の役割を理解し、今後の方策を検討する。  
 発達心理学における解析方法の習熟すると共に、実際に研究成果を発表する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～3	発達心理学領域の最新の動向	主要文献を概観し、発達心理学領域での最新動向を理解し、検討課題を明らかにした上で、その解決方法について学ぶ。	金澤潤一郎
4～6	児童～思春期における発達障害臨床の動向	児童～思春期における発達障害臨床の主要文献を概観し、最新動向を理解し、検討課題を明らかにした上で、その解決方法について学ぶ。	金澤潤一郎
7～9	成人期における発達障害臨床の動向	成人期における発達障害臨床の主要文献を概観し、最新動向を理解し、検討課題を明らかにした上で、その解決方法について学ぶ。	金澤潤一郎
10～12	福祉領域における公認心理師の役割	チーム医療・支援の一環として、公認心理師が福祉領域で果たす役割について、現状を把握し、今後の課題について議論する。	金澤潤一郎
13～15	発達心理学における解析方法の習熟と研究成果の発表	これまでに学んできた知見を研究成果として公表するに当たって必要な最近の解析方法について学び、実際に活用する。	金澤潤一郎

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用  
 授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題や事前学習への取り組み姿勢、および講義内のディスカッション・質疑応答に基づく総合評価

【教科書】

使用しない。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【学修の準備】

研究テーマに関連する論文を読んできて、当日、内容を報告できるようにすること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、臨床現場、教育・研究領域において必要な指導的能力と研究能力を修得し、人の尊厳を重んじて社会に貢献できる能力を修得するという臨床心理学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

公認心理師

**【実務経験を活かした教育内容】**

福祉や発達臨床における専門職としての実務経験を活かし、臨床現場の実情に即した実践的知識・技術の獲得ができるよう講義を展開する。